

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2373900493
法人名	平成フードサプライ有限会社
事業所名	グループホーム 稲沢重本の家
訪問調査日	平成 20 年 10 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 18 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2373900493		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム稲沢重本の家		
所在地	愛知県稲沢市重本2-84 (電話)0587-22-3211		

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年12月18日

【情報提供票より】(20年10月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 13 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(10月7日現在)

利用者人数	25 名	男性	6 名	女性	19 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	61 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中医院 ・ 古森歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは鉄骨3階建てであるが、民家や田畑の中に位置しどかな雰囲気地域に溶け込んでいる。利用者が安らぎと喜びのある生活を送ることができるよう常に利用者の気持ちに寄り添いながら、家庭的でのんびりとした雰囲気作りに取り組みされており、一人ひとりのこれまでのペースが暮らしに反映できるよう配慮されている。日々の暮らしの中で利用者の得意なことや個性が発揮できるような役割と、場面づくりを行なうと共に利用者それぞれのやりたいことやできることに合わせた楽しみや気晴らしの支援が行われている。近所の人とは、散歩のときに挨拶を交わしたり、ゴミ0運動やお地藏様の掃除などの地域活動に参加して、地域との交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回からの改善として、食事を手作りに変えたことである。利用者にも喜ばれ完食をする人が増えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は先ず職員で話し合い、それを各ユニットリーダーと館長とでまとめている。自己評価をすることによって、いろいろななき気付きがありケアの質の向上に反映させている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の主な出席者は区長、民生委員、利用者、家族などである。討議内容としては、活動報告やホームに対する意見や要望を聞いている。民生委員から保育園に声をかけてもらい、園児との交流の目的でホーム側から訪問した。顔つなぎができたので、今後つながりを持つように働きかけていく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時には必ず声をかけ、家族からの意見や要望が言いやすい雰囲気作りを努めている。訪問が少ない家族へは電話で様子を伝えている。状態の変化があった場合は速やかに連絡をとり、家族の安心を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の時に近所の人とは挨拶を交わしたり、近くのお地藏様の掃除に積極的に参加し、交流を図っている。また、地域のボランティアの人が定期的に訪れて、オカリナの演奏や手品、フラダンスなどを見せてもらっている。

2. 評価結果(詳細)

取り組みを期待したい項目

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「優しくて、おだやかに静かな介護をめざします」というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が不穏な時に、職員同士でおだやかに過ごせるにはどのようなケアをすればよいか話し合いながらケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時に近所の人と挨拶を交わしている。地域のボランティアが2ヶ月に1回程訪れてきて、オカリナの演奏や手品、フラダンスを披露してもらっている。また、8月のお盆には地藏様の掃除とおまじりをするなどの地域活動にも参加している。	○	今後は、保育園の運動会などにも参加して子供との交流を図りたいと考えている。
J					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員で話し合い、それを各ユニットリーダーと館長とでまとめている。前回評価での改善策として、食事を毎食手作りにしたところ、利用者も喜んで食べるようになった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとの運営推進会議には、区長、民生委員、利用者、家族などの参加を得ている。サービス内容の報告で意見を聞き、日々のサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	民生委員が運営推進会議に出席しているので、その情報提供により連携は取れている。市役所主催の認知症や感染症についての研修にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には本人の暮らしぶりや状況を話し、家族の訪問が困難な場合には、電話などで知らせている。健康状態に変化があった時には速やかに連絡を取り、家族からの安心を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に家族の意見や要望が汲み取れるような雰囲気作りに配慮し、職員から積極的に話しかけるようにしている。意見や要望をもとにカンファレンスを行い、サービスの改善に向けて検討をし、サービスの質の向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の異動はある。そのため職員は全体のことがわかっており、職員からの意見も聞き易くなった。利用者とも顔なじみになっているので、利用者へのダメージはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の研修には職員は交替で参加している。休みを利用して研修に行く職員もいる。また、個人的にNPO法人が作っている家族会に参加して、意見交換をしている職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の他のグループホームとの交流はあるが、外部との交流はない。	○	外部の事業所との交流で情報交換や意見交換を行ない、サービスの質の向上に反映させていくことを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際して体験入所は行っていないが、本人や家族に見学して雰囲気を見てもらっている。利用開始までには職員が利用者自宅に出向き、入居にあたっての不安なこと等を聞く機会を設けており、納得の行く入居となるよう配慮している。入居後は職員が他の利用者との交流のきっかけを作ったり、こまめに家族と連絡をとりあい、利用者が早く馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活の中で利用者に悩みを相談したりアドバイスをもらったり、時には励ましてもらうこともある。また調理の仕方など教わることもあり、共に寄り添い支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の中で利用者が何気なく話すことなどを、職員会議で取り上げ利用者が今、何を望んでいるかを検討して、少しでも利用者の思いや意向に添えるよう日々努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族に要望を聞いたり、月1回のケアカンファレンスをもとにして現状に即した介護計画を作成しているが、いろいろのケアチェック表が多くまとまりの無いものとなっている。	○	介護計画には利用者の心身の状態や変化をアセスメントし、それに対応した計画や具体策がもとめられる。したがって職員はアセスメントの情報源となる記録の重要性を認識していることから必要なことが把握しやすい記録様式の改善・検討を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に職員によるカンファレンスを行い、3ヶ月毎の見直しをしている。状態変化などがある場合利用者や家族等と話し合い、現状に即した計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医等の通院は職員が対応している。他個人的な買い物なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に説明して納得のうえでかかりつけ医を協力医に変更してもらっている。中にはかかりつけ医の継続の人もいるが、その場合は協力医との連携はできている。協力医による月4～5回の往診があり利用者が安心して生活できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人や家族に重度化や終末期のあり方について説明しているが、人それぞれ違いがあり方針はきめていない。	○	本人や家族、医師と話し合い、意志確認書や対応指針などを明文化することを望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは入居時に本人や家族に説明して同意を得ている。利用者に関する書類は人目に付き難い所に保管している。職員は利用者のプライバシーを損ねないように言葉遣いや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活パターンはできているが、家族が来訪した時に一緒に外出したり、リビングでテレビを見たり、部屋でラジオを聞くなどの他に行事やレクリエーションに参加できるよう働きかけて1日楽しく過ごすことができる工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は一緒に作ることは出来ないが、準備や後片付けは利用者の能力に応じて一緒に行っている。職員は利用者と同じテーブルで食事を取り、食べこぼしなどさり気ないサポートをして楽しく食事が出来る様配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は概ね1日置きとなっているが、入浴拒否がある場合には日時を変える場合がある。体調がよければ週3回は入浴している。時間は14時からとなっており、ゆったりくつろいでもらえるよう支援している。また入浴拒否の人には清拭を行う時がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくりを日課としている人は晴れの日には晴れマークを掲示して途中で雨が降ると雨マークに変更するなど、利用者がすすんで役割を果たしている。大正琴、習字、トランプ、散歩等楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩は殆ど毎日行っている。また喫茶店や買い物に行く時もある。玄関をでて外にはベンチが置いてあり、そこで寛ぐ人もいる。地域のお寺や地藏様の清掃やゴミ0運動に参加するなどの地域活動をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかかっていない。職員は鍵をかける弊害を理解しており、外出しそうな利用者には声をかけ一緒に出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行っている。11月には消防署の職員の協力の下、利用者は非常階段から降りた人もいる。その他非常扉の開閉や非常ベルの点検などである。また非常食は用意がしてある。	○	地域住民の協力も得ながら夜間想定の定期的訓練をすることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは概ね取れている。食事量や水分摂取量は把握している。また便秘にならないように乳製品を取るなどの配慮もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには手作りのカレンダーが飾られ大きく日にちがよくわかる。また、季節を感じる作品が展示されていたり、行事の時のスナップ写真が掲示されており、利用者は時折それを見ては思いだしている。利用者はリビングで歌をうたったり、ゲームを楽しんだり、テレビをみたり、それぞれが居心地よく過ごすことのできる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ、写真、仏壇、ダンスなど利用者の馴染みの物があり、居心地よく過ごすことができる居室となっている。		